

# 年1回検査で早期発見を

## 神戸 大腸がんテーマに市民講座

専門医が大腸がんの治療法について解説した。神戸市中央区東川崎町1



いい治療を受けるためには？！

- ① まずは主治医とよく相談。
- ② 分かりやすい言葉で、30分以上かけて説明をきく。
- ③ セカンドオピニオンも是非。
- ④ 治療開始までによく話し合う。
- ⑤ 検査の時に説明をよく聞く(せり家医と一緒に)
- ⑥ 十分準備して(精神的、社会的、肉体的に)治療を開始してもらう。
- ⑦ 副作用を我慢するとかえって、治療効果を弱めるので、無理せず、必要に応じて休む・弱力を認める。

大腸がんをテーマにした市民公開講座(神戸新聞社主催)が6日、神戸市中央区の神戸新聞松方ホールで開かれ、約450人が参加した。専門医5人が最新の治療法などを解説した。

座長を務めた神戸大

学院の掛地吉弘・食道胃腸外科教授は大腸がんの概略を説明。日本で多くなっている理由として、食の欧米化で、便が腸の粘膜を刺激する時間が増えていていることを挙げた。

志・下部消化器外科部長

は内視鏡の一種、腹腔鏡を使った手術など体への負担が小さい療法、佐野病院の小高雅人・消化器センター長は肛門を残す手術と術後の化学療法などを説明した。市立医療センター中央市民病院の辻晃仁・腫瘍内科部長は抗がん剤の副作用を抑える薬を紹介。「副作用を我慢せず、主治医とよく相談を」と呼び掛けた。講座では、消化管からの出血を便から調べる「潜血反応検査」を年1回受け、がんを早期発見する重要性が強調された。

最後に、兵庫医科大学の富田尚裕・下部消化管外科主任教授が大腸がんの治療法は幅広いことを説き、「これまでは医師が治療方針を決めていたが、今は患者や家族とじっくり相談して決める時代」と締めくくった。

(藤森恵一郎)